



文責 森本 聡一郎

3年間の「自分探しの旅」を感動に満ちたものにしよう
最上級生の自覚をもち、夢の実現のために良いスタートを切ろう！

普通であることを最低限のレベルと心得よう。

その最低限のレベルをどこまで上げていくかが課題です。

1. 「高校生活ラストイヤーの始まりに当たって」

☆『学校の勉強 + α 、さらに + α 』を毎日繰り返すこと

学校の勉強が理解できることは基本中の基本ですが、進路実現を考えるならば、継続的にプラス α の学習努力を続ける必要があります。部活動をしている人は、「えー！これ以上勉強するの…?!」と言いそうですが、答えはYESです。十分できます。これまでの家庭学習の量を考えれば時間はたっぷりあるはず。そもそもこれまでが、全国標準に及ばないのでから…。

残りは数か月しかありませんから、ここで頑張らねばどうする。気持ちを切り替え、心を鬼にして、さあ進路実現です。どこかの学校に合格したところで次の保証などどこにもないのです。世の中、そんなに甘くはありません。苦勞して受験を勝ち抜いたはずの学生が、再び出口のところで苦勞して泣いているのですから。まして、努力もしていないような者を選ぶ企業などどこにもありません。

☆最高学年は風紀に一番厳しくあれ！

上級生の締まらない学校が立派な学校である訳がない。学校の責任を両肩に背負い、模範を背中を示すこと。まずは、その自覚を確かなものにしておいてください。「3年生だから許される」のではなく、「**3年生だからこそ許されない**」と思うべきなのです。キミ達の背中を見て、「これが最上級生になる者の姿なのかな」と思ったり、「それでも少しは成長してきたのかな」などと思うことはあります。

人生の大きなターニング・ポイントに差し掛かりますが、これまで通り自分自身と学年全体の絆を忘れることなく行動してください。キミ達一人ひとりの節制と克己が集団に勇氣と力を与えます。望ましい成果はそのような行動なしには達せられないことを肝に銘じておいてください。「俺はおれだ」では周囲に迷惑をかけ、集団の足を引っ張ることになりかねないのです。

最上級生としての誇りとは、ここまでいろいろな辛抱や我慢してきた者がもつ、しっかりとした背中に表現されるものです。口や態度で偉そうに振舞う3年生ではなく、後輩たちがキミ達3年生の背中を見て「上級生はしっかりしているなあ」と思うような姿勢で学校を引っ張って行ってください。



79回生 がんばれ！

2. 「第3学年団、担任の今年度の抱負」

1組担任 小池 亮太

「おもしろくしたい！」これが私自身の今年一年のテーマです。私は基本的に面倒くさがりです。だから、何をやるにしても、面倒だと感じてしまいます。ですが、どうせやるなら「おもしろく！」やりたいなど。それは、みなさんも同じで、自分のこと、クラスのこと、学校のこと、特に今年は150周年式典もあります。どうせやるなら、一生懸命本気でやってみましょうよ！本気でやっていたら、なんだかだんだん楽しくなってくるものです。文化祭、体育祭79回生のパワーを他学年に見せつけましょう！そんな一年にしましょう！

2組担任 細川 和暉

今年も皆さんと過ごせることを嬉しく思います。よろしくお祈りします！

さて高校生活最後の1年です。この1年は特に「当たり前を大切にすること」を意識してほしいです。毎日学校に来ること。授業を受けること。友達と話すこと。行事に本気で取り組むこと、進路に向けて本気で努力すること。卒業したら、その当たり前はもう戻ってきません。一生で今しかできないことばかりです。「長い人生の中の優先順位」をよく考えて行動しましょう。僕もみんなとの最後の1年、大切にします！一緒に頑張りましょう！

3組担任 北倉 美沙

私の今年度の抱負は「79回生が笑顔で鳳鳴高校を卒業できるようにサポートする」です。実はこの抱負は昨年度、一昨年度と同じものです。ただ、今年度はこの抱負が現実味を帯びてきたので、少し緊張しています。進路のこと、学校生活のことで様々な不安はあるかもしれませんが、皆さんとたくさん話をしながら、この1年も走り抜きたいと思います。

今年度もうとうしいと思うかもしれませんが、よろしくお祈りします。

4組担任 片山 周

「何ができる数学教師になるか」。私が大学生の時の考えていたことです。大学時代は「京都マスター」を目指して、京都に行きまわりました。ずっと興味があった音楽（アカペラ）や星についての勉強もしました。教師になってからはまず、Excelの勉強をしました。そんな風に、自分に着色してきました。そして兼ねてから考えているのが、「英語が話せたら…」ということです。今年はそれに向けて、皆さんと一緒に勉強しようと思います！

主任 森本聡一郎

今から41年前の高校3年生の記憶は鮮明に覚えています。全国高校駅伝出場を本気で目指した1年間でした。しかし、2位に甘んじて全国大会には高校時代に1度も出場することはできませんでした。選手として出場できなかった全国大会に今度は指導者として目指そうと、進路について初めて真剣に考えました。親にも相談せず、勝手に顧問の先生から東京の大学に断りを入れてもらいました。一生懸命にしていると多くの出会いがあり、人生に影響を与える言葉に出会います。一日一日を大切かつ丁寧に過ごしましょう。

副主任 三村 悠子

『3学年』この一年間はこれまでの2倍速で、ギュッと濃縮された時間を過ごすこととなりますね。人生の岐路とも言える大切な場面に関われることを有難く感じています。私は悩んだ時、若い頃先輩がかけてくれたこんな言葉をよく思い出します。「で、あなたは結局どうしたいの!？」今年度は、79回生の皆さんとトライ&エラーを恐れず行動に移す勇気をカタチにしたいと思っています。ぜひ一緒に困難の中のワクワクを見つけていきましょう！

3. 「4月当初の予定」

4月	8日(水)	大掃除・着任式・始業式 8:35までに3階のHR教室に登校。大掃除後、新クラス発表 → 新クラスに移動後HR → 着任式・始業式 LHR ※午後入学式
	9日(木)	課題考査(1限~4限) ⑤学年集会 ⑥⑦LHR ※頭髪服装検査
	10日(金)	①②授業 ③④身体計測 ⑤離任式 ⑥LHR
	13日(月)	①~③授業 ④教育講演会 ⑤⑥対面式・部活動紹介
	17日(金)	遠足(USJ)

4. 《人のために奉仕しているときは、自分が親切を与えていると思わずに、ツケを返しているとおもうようにせよ》

ベンジャミン・フランクリン (1706-1790 アメリカ政治家)

もう自分のことなど自分でできるはずのキミ達ですが、3年生になれば進路関係のことでこれまで以上に先生方の世話になることとなります。そして、進学ともなれば、保護者の方々に大変な出費をしていただくこととなります。キミ達はまだ学生であり、未成年なので、それはそれで甘えなければ仕方のないことですが、しかし、「してもらって当然」ではありません。」もっと言えば、キミ達は人生ここに至るまで途方もない恩義を受けてきているのです。そのことを理解すれば、これ以上要求するのは虫が良すぎるのではないのでしょうか。

「あなたの国があなたのために何ができるかを問わないでほしい。あなたが、あなたの国のためになにができるかを問うてほしい。」これは、米国第35代大統領ケネディが1961年の就任演説で述べた有名なセリフです。同じように、残る1年間、保護者の方や学校に何かを要求するのではなく、反対に、自分に何ができるかを考えて実践していくことはキミ達の義務であり、使命であるのです。誰かのために何かをするのは立派かもしれませんが、それはこれまでの途方もない借りを少しばかり返済するというだけのことでないのでしょうか。